

## KOBELCO 大ホールバックステージツアー報告(2019.5.28)

### 1. はじめに

兵庫芸術文化センターのバックステージツアーに行ってきました。今回は、大ホールの裏側をツアーする、「なるほど KOBELCO 大ホール」です。ステージ側は、常日頃コンサートでお馴染みですが、バックステージの見学は初めてです。本センターの施設の概要は以下のサイトで見ることができます。

<http://www1.gcenter-hyogo.jp/facilities/>

### 2. KOBELCO 大ホールバックステージツアーの経過

最初に当ホール建設の経過やコンセプトについての説明がありました。それによると次のようなことが特徴です。

- ・運営組織を当初から立ち上げた。
- ・他ホールを借りての実験を行った。
- ・建設前から音楽監督を佐渡裕氏に委嘱した。
- ・建設の過程で、音楽監督や運営組織や他の専門家もコミットした。
- ・専用の楽団を持つことにし、若手演奏家の育成の場とした。

また、建設のコンセプトは次のとおりです。

- ・ワグナー祝祭劇場を参考にし、オケのピットを設け、オペラの演奏も可能とした。
- ・木の響きを大切にした。

壁：アフリカマホガニー、舞台床：檜

- ・建築基準法との関係について、木材の不燃処理と火災時の避難時間を考慮した。
- ・反響版を設置した。
- ・残響時間は 1.6~2.0 秒である。
- ・ほぼ正方形の形状とし、均等に音が届くようにした。
- ・壁は傾斜や凹凸を設けて、定在波が出にくくした。
- ・空調ノイズを極小とし、暗騒音は 25dB である。
- ・演奏終了後の整理、清掃時間を短縮できるようにした。

ここで、響きを感じてもらおうということで楽団員によるフルートの演奏がありました。が、響きの良さや指裁きやタンニングなどの音の細部が響きにかき消されないことが分りました。

まず、ツアーの最初にステージに上がり客席を見渡ししながら、手を叩いて響きを確認することができました。



次にステージの裏側に移動し、その様子を見学することができました。



ステージ後方の準備スペース



遮音板



出演者のサイン

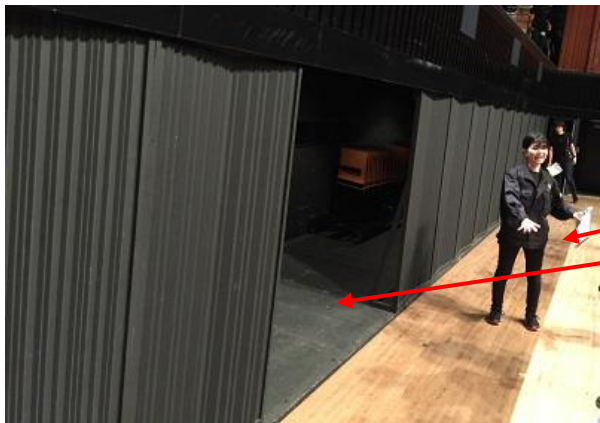


ステージ後方の壁を後退中



オペラ用の舞台に変更

次にステージ全面の可動部分に乗ってオーケストラピットの位置に降り、ピットの後ろにあるワーグナーピットも見ることができました。

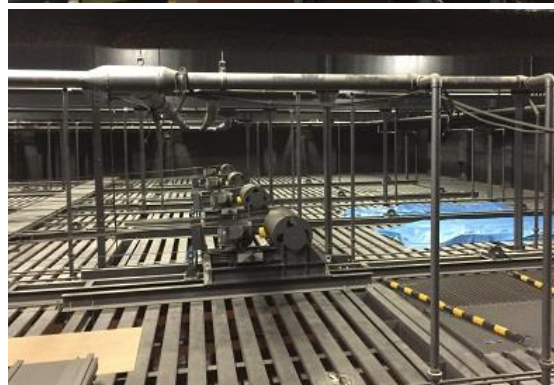
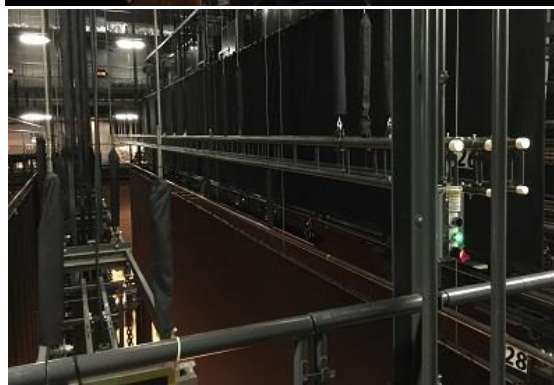


オーケストラピット  
ワーグナーピット

ここからは天井裏に移動し、舞台装置の移動や照明関係の装置を見ることができました。



スポットライトの操作を体験



最後に地下におり、一般演奏家用ドレッシング室、休憩室、シャワー室、指揮者やソリストの控室などを見学し、客席に戻って質問を受けてもらって解散となりました。



ソリスト用控室ピアノ

質問の前に通常のコンサートからオペラの舞台に変わった状態で、再びフルートの演奏を聴かせてもらい、後面の反響板がなくなったときの響き具合を体験できましたが、随分と響きが変わっていることが確認できました。

### 3. まとめ

移動中、ツアーガイドやその場所で待機していただいた舞台技術や照明技術の専門の担当者から詳しい説明を受けることができました。

ホールの成り立ちや設計のコンセプト、バックステージの構成や各部署の技術担当者の役割についても理解を深めることができ、有意義なツアーでした。

以上